

ますはら

「神の箱を移そう」

「私たちの神の箱を私たちのもとに移そうではないか。サウルの時代には、これをおろそかにしたからである。」

(歴代誌上 第13章3節・旧約聖書633頁)

はじめに

「主は生きておられる」との信仰告白には、御言葉の約束を心に刻み、同時に主との交わりである礼拝を欠かさないことが肝心です。

レビ記において、神が私たちを神との交わり、礼拝の場に招いてくださっている、その招きに応じる信仰姿勢を見ましたが、今回は、違う角度から、礼拝をおろそかにしてはならないことを確認することにします。

神の箱

この箇所は、ダビデが民たちに呼びかけている言葉です。レビ記の時にも申し上げましたが、神の箱は、自分たちが神に選ばれた民であることを証明する象徴であり、「神がおられる」ことが救いそのものであることから、神の箱が民たちの中心に置かれたのです。ですから今の私たちクリスチャンにとって、神我らと共におられる、インマヌエルと呼ばれる主イエスこそが「神の箱」と言えます。

なぜおろそかになっていたのか

ここで注目したいのは「サウルの時代には、これをおろそかにした」という言葉です。

サウルはなぜ一番重要な神の箱、言い換えるならば「礼拝」をおろそかにしてしまったのでしょうか。サウルの生涯をたどっていくと、最初は信仰心が篤かったサウルでしたが、自分の力が充実し、王国の権力も掌握してからは、信仰姿勢が次第に変化していきます。特にサムエル記上では、サムエルの定めを守らず、禁を破り、自ら司式して祭儀(礼拝)を行うなど(13:9、

15:26)、「主に尋ねない」ことを問題視していません。さらに自らの考えを「神の御心」であるかのように行動し、ヨナタンやダビデを危機的状況に追いやりました。霊媒を呼んでいても、彼が御心を求めて祈る姿はどこにも見当たりません。こうした主を求めない姿勢には「神の箱」は無意味でした。「サウルは主に対する背信の罪のために死んだ。彼は主の言葉を守らず、霊媒に伺いを立て…主に伺いを立てようとしなかった。そのため主は彼の命を絶ち」(歴上10:13)と総括されてしまっています。信仰より目に見える成果、実利を重んじたことで、神の箱を中心に据えるという発想自体生まれなかったのです。そして神の箱は、キルヤト・エアリムに置かれて約20年(サムエル上7:2)、この町の人たちもその特権に気付かず、神の民からも忘れ去られていた存在でした。

神の箱を移そう

私たちはこの最悪な信仰の不毛時代を作ってはなりません。ダビデのように、神の箱を神の民の中心にすえるように、礼拝を私たちの生活の中心にすべきです。そのためには、神の臨在こそが私の救いであるとの信仰を高めていくべきです。ダビデはうたっています。「私が主に願った一つのこと 私はそれを求め続けよう。命のあるかぎり主の家に住み 主の麗しさにまみえ 主の宮で尋ね求めることを。」(詩編27:4)。心に刻みましょう。

【礼拝説教はスマホでも視聴できます】
右記のQRコードを読み取ってアクセスしてください。



今週の祈り

「ダビデは…『彼らと呼ばれ集め、私たちの神の箱を私たちのもとに移そうではないか。サウルの時代には、これをおろそかにしたからである。』それは民の誰の目にも適う正しいことだったので、全会衆は『そうしましょう』と言った。」(歴代誌上 13:3～4)

「あなたは愚かなことをした。あなたの神、主が命じられた戒めを守らなかった。今まさに、主はあなたの王権をイスラエルの上にとこしえに確立しようとしておられたのに。」(サムエル記上 13:13)



「あなたと一緒に帰ることはできない。あなたが主の言葉を退けたので、主はあなたをイスラエルの王位から退けられた。」(サムエル記上

15:26)

「私が主に願った一つのこと 私はそれを求め続けよう。命のあるかぎり主の家に住み 主の麗しさにまみえ 主の宮で尋ね求めることを。」(詩編 27:4)

私はいつの間にか自分の力により頼み、サウルが神の箱の存在を忘れたように、礼拝をおろそかにしていたように思います。主よ、お赦してください。御名によってお祈りいたします。アーメン。

深読みにチャレンジ!

箴言 (93) 第4章23節

*三つの違う訳を読み比べてみましょう。

- ◎協会共同訳 「守るべきものすべてにも増してあなたの心を保て。命はそこから来る。」
- ◎口語訳 「油断することなく、あなたの心を守れ、命の泉は、これから流れ出るからである。」
- ◎新改訳 「力の限り、見張って、あなたの心を見守れ。いのちの泉はこれからわく。」

「命の泉」

協会共同訳では「命の泉」とは訳していません。ただの「命」です。先週も、3つの訳のとらえ方について取り上げましたが、私はこの「命の泉」という表現が好きなので、協会共同訳でも採用してもらいたかったなと思っています。英語訳を調べてみると「命」派と「命の泉」派がありましたので、「心身」同様、原語に含まれている意味をどう理解するのか、難しい判断が合ったのだらうと思います。

ご存知のように翻訳は、外国語の文章を本意に忠実にいかに的確に、そして受け入れやすく訳すかにかかっています。そこが翻訳者の腕の見せ所になります。聖書ほどその忠実さを求められている翻訳はありません。その本分に「加えたり、削ったりしてはならない」と明記されているわけですから、命がけです。だれにも分かる言葉や表現を用いることを前面に押し出して

【神からの知恵によって生きる】

箴言はソロモンが語った知恵の言葉を中心に構成されています。31章から構成されていますが、あたかも短編を読んでいるかのように、種々雑多な知恵の言葉が連なっています。ソロモンが思いつくままに語った言葉を、そのまま筆記したのではないかと思えるほどです。

この書このような性格上、まとめて解説するのが難しいため、この欄で、一つ一つの言葉をじっくり味わいたいと思います。箴言から得る知恵によって、深みのある生き方を学び、よりよい人間関係を築かせていただきたいと思います。

- 1 父から子へ・受け継がれるべき知恵 (1:1～9:18)
- 2 生活の処方箋・知っておくべき知恵 (10:1～22:16)
- 3 先人からの知恵 (22:17～31:31)
 - a 知恵ある人の言葉 (22:17～24:34)
 - b ソロモンの言葉 (25:1～29:27)
 - c アゲルの言葉 (30:1～33)
 - d レムエルの言葉 (31:1～31)

訳された『リビングバイブル』は本当に分かりやすいのですが、今も「参考訳」に留まっているのは、「翻訳しすぎた」からです。

そのせめぎ合いがある中で「命の泉」となったのは、ヘブライ語の「トツァア」が原因です。この語は「出る」から派生しており、命の「出どころ」「内から外に出てくる結果」などを表しており、ですから「泉」を指すこともあるのです。それが命の語「ハイ」とつながっていることで、「心から出てくるものによって命が保たれる」という意味になり、「命の泉」と訳されたのです。

聖書日課

毎朝、決められた時間に聖書を読み、お祈りをするのはクリスチャンの生命線です。この聖書日課を使って心の糧を欠かさないようにしましょう。そのために最低でも15分間を神との交わりのために聖別してください。

朝にどうしても時間のとれない方は、昼休みでも就寝前でもかまいません。ぜひ、実行してください。

【祈りの時の持ち方(例)】

- ①まず黙想し、次に、自分の心を神に向けるために賛美する。賛美曲を歌えない場合は、歌詞を味わう。
- ②御言葉を読み、自分へのメッセージが何かをさぐる。例えば、神の恵み、告白すべき罪、従うべき命令、ならうべき模範など。
- ③自分が神のメッセージにどうこたえるのかを祈る。感謝や信頼の表明、悔い改め、服従、献身など。
- ④自分の祈りだけでなく、できるだけ「祈禱課題」も祈る。

【月曜日】◆今週のすべての集会在祝福され、救いにつながるように祈りましょう。

ネヘミヤ記第6章9節「『あの者たちは工事から手を引き、それは完成しないだろう』などと言って、私たちを脅している。今こそ私の手を強くしてください。」◆サンバラトの一派は徹底的にネヘミヤの事業を妨害した。さまざまな手を使って、民たちの手を弱らせようとした。教会にも起こりうる。自分の言いなりにならないと、教会をそり、また人々を動揺させ、しつこいほど妨害をする例も少なくはない。そのような時、私たちは人ではなく、神の力を期待するのだ。神こそがわれらの手を強くしてください。そして、神の敵に恥をかかせてくださる方なのである。

●賛美 / 12 ●祈禱課題

- ◆昨日、礼拝に集えなかった人が恵みからもれないように。
- ◆この教会も世界宣教の一拠点であることを自覚し、重荷を持って祈れるように。特に共産圏、イスラム圏伝道が進むように。迫害にある宣教師のために。現地語聖書の翻訳が進むように。異端からの救出が進むように。台湾活水泉の活動のために。

【火曜日】◆教会のビジョンのため、将来の働きが祝福されるように祈りましょう。

ネヘミヤ記第7章2節「また私は、私の兄弟のハナンと城塞の長ハナンヤにエルサレムを治めるよう命じた。ハナンヤは誠実な人物で、誰よりも神を畏れていたからである。」◆王国における歴代の王の中で、どれだけの人物が「ダビデの道に歩んだ」であろうか。神など恐れず、多くの偶像を取り入れ、民たちを惑わした者がどれだけいたろうか。主に忠実で、神を恐れる者はどのような時にも神を第一とし、神に寄り頼む。そして、それが民たちに影響を与え、祝福されるのだ。私たちが忠信であることで、家庭にも、教会にも神の栄光がもたらされる。

●賛美 / 13 ●祈禱課題

- ◆日本福音同盟、日本福音連盟、聖化交友会、キリスト教各出版社、EHC、ケズィック、太平洋放送協会、F E B C、キリスト者学生会、日本国際飢餓対策機構、ワールド・ビジョン、いのちの水計画、総動員伝道、Hi-b.a、日本国際ギデオン協会(聖書配布)、新生宣教団等の働きとスタッフのため。

【水曜日】◆宣教福祉事業が祝福されるように祈りましょう。

ネヘミヤ記第8章11節「レビ人たちは民全員を静かにさせて言った。『静かにしなさい。今日は聖なる日だ。悲しんではならない。』」◆民たちは律法の言葉を聞き、自分の信仰のなさを嘆いた。毎日復興事業に当たってきた中で、彼らはどれだけ都が傷ついているかを実感した。そして、なぜ美しい都がこのようになり、なまじな姿になってしまったのかを回顧していたに違いない。そして、それを実感させたのがその存在すら薄らいでいた律法の言葉だった。神はさばこつとはされていない。そこで自分を悔い改め、もう一度神に立ち返ろうとする信仰をお待ちなのだ。

●賛美 / 14 ●祈禱課題

- ◆新会堂が与えられるように祈りましょう。①駅、バス停に近い場所に良い土地が与えられるように②十分な資金が与えられるように③早期に建てられるように
- ◆宗教法人を取得できるように
- ◆伝道の拠点が祝福され、用いられるように。(まきば、小山宮下事務所、向陽町)

【木曜日】◆弱っている方々、病にある方々のために祈りましょう。

ネヘミヤ記第9章28節「しかし、平穩になると 彼らは再び御前に悪を行ったので」◆ネヘミヤたちが心配だったのは、神の民たちの信仰が長続きするかどうかだった。苦しい時の神頼みはどの時代にも、そしてどこの国にも存在する。自分に問題が降りかかってきた時には「助けてください」と祈るのだが、解決されると神を忘れた生活に戻る。ところが、神は、そのような祈りでも聞いてくださるのだ。ネヘミヤはそのような歴史をも語り、民たちに真の信仰を促した。日々の感謝、そして日々の悔い改めを忘れてはならない。

●賛美／15 ●祈禱課題

◆教会学校の成長と救い、青年の結婚、教会員の信仰の成長と家族の救いのため。

◆教会ビジョンのため（社会宣教事業、伝道所の開設、保養施設建設、会堂建築、納骨堂、宗教法人格取得、学生寮、高齢者住宅）、教会員から伝道者や献身者が与えられるよう、教会会計の祝福

【金曜日】◆礼拝出席平均が50名以上となり、受洗者が年間3名以上与えられるように祈りましょう。

ネヘミヤ記第10章39節「そしてレビ人はその十分の一の十分の一を神殿へと携え上り、宝物庫に属する部屋に納める。」◆聖日礼拝を守ることの重要性を忘れてはならない。それは私たちの信仰告白でもある。そして、それが信仰の成長にもつながっていく。礼拝を最優先する姿勢を貫こうとする姿勢をもてば、なんとかして礼拝を守れるようにならないかと祈りはじめ、結果、良い知恵が与えられたり、休まなくても済むようになっていく。復興を果たした神の民たちは神の宮をなおざりにしたことで都が陥落し、敵の捕囚になった。その失敗から学んだのだ。

●賛美／16 ●祈禱課題

◆この教会に聖霊の著しい働きがもたらされ、リバイバルが起こるように。常に新来会者が与えられ、求道者、受洗希望者がもたらされて、教勢が祝福されるように。

◆土屋牧師、淳子師（牧師一家）、思乃扶師、石出師の働きのために。

◆老齢の方、病の中にある方々のいやしのために。

【土曜日】◆聖日に備え、健康が保たれ、出席しやすい天候が与えられるように祈りましょう。

ネヘミヤ記第11章1節「民の長たちはエルサレムに住んだが、他の民はくじを引き、十人のうち一人が聖なる都エルサレムに来て住み、残りの九人は他の町に住むようにした。」◆くじを引いてエルサレムの城壁内に住む者を選んだ。住みたい人が大勢いたからではない。神の都に住むとなると、それに恥じないように律法を厳守する生活をしなければならぬ。その堅苦しさから逃れたいから敬遠したのだ。都に住んでいなければ、神は見えておられないのか。そんなことはない。教会にも自宅にも、自室にも、そこに神はおられる。自らを律していきたい。

●賛美／17 ●祈禱課題

◆子どもを含め、すべての人が礼拝を守れるように。あらゆる集会が祝福され、参加者が御言葉によって取り扱われるように。奉仕者が恵まれてご用にあたれるように。

◆ホームページが用いられるように。また礼拝動画が用いられるように。教会から出している週報や印刷物が用いられるように。

【日曜日】◆新来会者が起こされるように祈りましょう。

ネヘミヤ記第12章43節「女も子どもも喜び、エルサレムの喜びは遠くまで響いた」◆口語訳は42節を「歌うたう者たちは声高く歌った」と訳している。私は、小学生時代に音楽の先生に濡れ衣を着せられたことが原因で音楽に背を向けた。が、教会で否応なしに音楽と触れ、賛美の力を味わえるようになった。祖母から「祖父は大きな声で賛美歌を歌っていたよ」と聞き、誰よりも大きな声で歌うことを心がけたことで、私の信仰は強められたような気がする。自分の口で、大きな声で信仰告白しているのだから当たり前だ。主はそれを祝福して下さったのだ。

●賛美／18 ●祈禱課題

◆この教会に連なるすべての方々が聖日礼拝を厳守できるように。聖書通読を続けられるように。御言葉を味わえるように。祈りに励めるように。ささげる恵みにあずかれるように。積極的に神さまから受けた恵みを語れるように。

◆受験生、就職活動者、試練にある者のために。



おやこでせいしよ

●きょうのせいしよ

【ルカによるふくいんしよ 10:38～42】

「マルタとマリア」

(ルカ 10:42)

ときどき おうちのひとから「ちょっと、おてつだいでほしいんだけど」とおねがいをされたことがありますか。そのとき、あなたは どうしますか。きっと、「はい」とおおきなこえで へんじをして、おてつだいはじめるはずです。でも、すきなほんをよんでいたり、たそびに むちゅうになっていたり、それから、やるきがない、めんどくさい きもちになっていたら、「はい」というへんじが できないこともたまにあるかもしれませんね。そんなとき、おうちのひとは、こまってしまい、がっかりしてしまうでしょう。

この かしよにかいてあるのは、そんな はなしとは ちょっと ちがっています。

あるとき、イエスさまは マルタとマリア、そしてラザロがすんでいる いえに きました。イエスさまが くるのですから、たくさん

のひとも いっしょです。マルタは そのひとたちに のみものをだしたり、しょくじもださなければならぬので、いそがしくしていました。それは イエスさまが きてからも おなじでした。イエスさまがおはなしされているときも、おせわのことを いっしょうけんめいかんがえて、うごきまわっていました。

あとみると、いもうとの マリアは イエスさまのはなしを きいています。マルタは「なんで いっしょに てつだってくれないの？」とおもい、イエスさまに「マリアにはなしをきかないで、てつだうようにいってください。いそがしいのですから」と もんくをいったのです。

すると イエスさまは「いま、いちばんたいせつなことは なんだとおもう？それは みことばを きくことだよ。だから マリアは いっしょうけんめい わたしのことばを きいているんだ」とおこたえになりました。てつだわなくていいのではありません。いつも、なにが いちばんたいせつなのかを かんがえて それをじっこうすることが たいせつなのです。

●かんがえてみよう

☆イエスさまが こられたとき、マルタは なにを していましたか。(ルカ 10:40)

☆マルタは マリアをみて、どんな もんくを イエスさまに いいましたか。(ルカ 10:40)

☆イエスさまは マルタに なんといいましたか。(ルカ 10:42)



なみむ聖書

もじ独

あいているマスに、右の9文字のどれかを入れます。タテ列（9列あります）、ヨコ列（9列あります）、太線で囲まれた3×3のブロック（それぞれ9マスあるブロックが9つあります）のどれにも9文字のいずれかがはいりませんが、文字が重なってはいけません。数独と同じ要領です。

よいほうちえらんだ

え		んい			よ		ほ	
		らえ						
いよ	ほ	らん						
ら	を							
	んえ	うほ				よ	ら	
						え	だ	い
んえ		よ		ら	だ	ほう		
ほ	ら			う	え	い		よ
う	い	よ	ほ	だ			ん	え

ことばあそび

今週の聖書箇所の中に出てくる言葉です。それぞれを並び替えると意味が通る言葉になります。答えてください。

- ① うずらおいもわ
- ② ほよいう
- ③ あしとも
- ④ しもなて

まちがいさがし

3つあるよ!さがしてね





牧師の 聖書 ななめ読み

「選挙結果」

私は特定の支持政党を持っているわけではありませんが、今回の自民党の大勝は憂慮しています。理由は「憲法」にあります。

高市総理は安倍元総理の信奉者といわれるほどで、政治理念も含め、ほぼぶれがないほど踏襲しています。ノーベル平和賞の候補にも挙がったことがあります。戦争の放棄、戦力の不保持をうたっている「憲法第9条」は、日本の平和の抑止力になってきました。しかし、それを換えようとしてきたの

が自民党でした。ただ、改正案の発議ができる3分の2には届かなかったため、実現できませんでした。近年、それを強く打ち出したのが、極右翼、岸信介元総理の孫、安倍元総理です。アベノミクスを掲げて議席数を伸ばしたものの、あと少しで届かず、私はホッとしたものです。ところが今回の大勝で現実味を帯びてきました。しかも、他の政党も含めると、改憲に賛成する力が大半を占める勢いです。

自衛隊が軍隊になると紛争地域に送ることができます。外国には受けが良い、外交力もあがる。しかし、当然戦死者が出る。そうすると軍隊に誰も入らなくなる。すると政府は徴兵制を成立させ、誰もが戦場に送られることになるはず。そうになったら、もう遅いんです。できる限り抵抗すべきです。

聖書ふれあい街歩き

●ゲゼル

イスラエル王国樹立当時、いつもペリシテ人の勢力に脅かされていました。しかしダビデは少年時代のゴリアトからの勝利に始まって、ペリシテ人と戦い(あるときには庇護されていた時もあったのですが)、勝利を収め続けました。そして王となってからは、「ギブオンからゲゼルに至るまで、ペリシテ人の陣営を討った」(歴代誌上 14:16)のです。

ギブオンはベニヤミンの領地にあり、ヨシユアがだまされて、追い出すことができなかった民たちが住んでいた町です。山地にあります。一方ゲゼルは本来のペリシテ人が寄留していた町で、海沿いのエジプトに比較的近い場所にあった町です。ペリシテの中心拠点の一つです。つまり、侵略し続けられて、ギブオンまで食い込まれていた勢力をペリシテの拠点まで押し返したことを示しています。ペリシテの五大都市、ペリシテの五人の王がいて、それぞれが自治権を持ち、連合国家を築いていました(ガザ、アシュケロン、アシユドド、エクロン、ガト)が、それ以外に要衝となっていた町がいくつかあり、その最重要都市がゲゼルでした。海外貿易や作戦を展開するための交通の要衝であったとされています。

ななめ聖書 先週のこたえ

も	し	な	ち	べ	じ	う	つ	ゆ
べ	う	じ	ゆ	も	つ	ち	な	し
ち	ゆ	つ	な	う	し	じ	も	べ
え	な	ち	じ	つ	ゆ	べ	し	も
ゆ	べ	も	し	ち	う	な	じ	つ
じ	つ	し	べ	な	も	ゆ	う	ち
な	じ	ゆ	も	し	べ	つ	ち	う
つ	も	べ	う	じ	ち	し	ゆ	な
し	ち	う	つ	ゆ	な	も	べ	じ

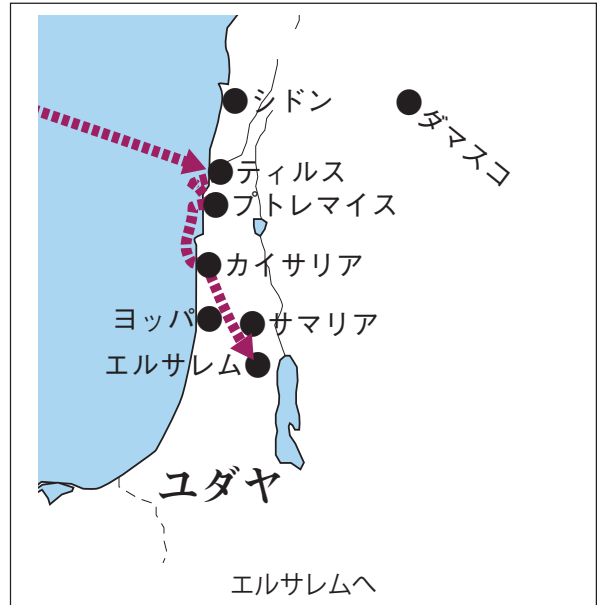
- ①うけとったもの
- ②しゆくえん
- ③おくびょう
- ④くらやみ



ユダヤ人への対処

人々はこれを聞いて、神を崇め、パウロに言った。「兄弟よ、ご存じのように、幾万人ものユダヤ人が信者になって、皆熱心に律法を守っています。この人たちがあなたについて聞かされているところによると、あなたは異邦人の間にいる全ユダヤ人に対して、『子どもに割礼を施すな。慣習に従うな』と言って、モーセに背くように教えているとのこと。一体、どうしたらよいでしょうか。

あなたが来られたことを彼らはききと耳にします。だから、私たちの言うとおりにしてください。私たちの中に誓願を立てた者が四人います。この人たちを連れて行って一緒に身を清め、彼らが頭をそる費用を出してください。そうすれば、あなたについて聞かされていることが根も葉もなく、あなたは律法を守って正しく生活しているということが、皆に分かるでしょう。」(使徒言行録 21:17～24)



【割礼の問題】

なぜユダヤ人たちはパウロの命を奪おうとしたのでしょうか。

ヤコブがここでまっさきに指摘しているのは「子どもに割礼を施すな」、つまり割礼問題でした。そして、この「『慣習』に従うな」とパウロが主張していることに原因があると考えていたのです。

しかし、パウロが「子どもに割礼を施すな」と言っている箇所は見当たりません。熱心な迫害者からキリストの福音の伝道者になってしまったパウロへの批判は感情的な要素も加わって、伝わってしまっていることがわかります。

パウロは割礼を受けようが、受けまいが、信仰には関係ない」との立場です。その証拠にパウロは愛弟子のテモテに自ら割礼を施しています。

「パウロは、このテモテを連れて行きかけたので、その地方に住むユダヤ人の手前、彼に割礼を施した」(使徒16:3)とあるように、ギリシア人を父に持つテモテは、それゆえに神が選ばれた民のしるしである割礼を受けていませんでした。パウロは「ユダヤ人には、ユダヤ人のようになりました。ユダヤ人を得るためです。律法の下にある人には、私自身はそうではありませんが、律法の下にある人のようになりました。律法の下にある人を得るためです。」(コリント一9:20～21)と言っているように、救いの条件ではなく、ユダヤ人を伝道するために障がいにならないように受けさせたのです。

そもそも割礼とは、男性の陰茎の包皮（亀頭を覆う皮膚）を輪状に切除することなのですが、創世記17章で、アブラハムが99歳のアブラム時代

に、「あなたを多くの国民の父とする」との契約のしるしとして「男子は皆、代々にわたって、生後八日目に、必ず割礼を受けなければならない」と命じられた行為で、それ以降、神との契約の民として、守られていきました。現在もモーセ五書を根拠としている宗教、ユダヤ教やイスラム教では重要視されています。

ではなぜ、クリスチャンは割礼を受けなくても良いのでしょうか。

主イエスが旧約聖書の律法を実現し、新しい契約である救いの道を開かれたからです。律法を守らなければ神の民ではないとした「律法主義」は廃棄され、主イエスを信じる信仰によって救われ、神の民とされることとなったことで、割礼は必要なくなりました。

パウロはガラテヤの信徒に宛てて、「割礼の有無は問題ではなく、大事なものは、新しく造られることです」(6:15)とはっきり言っています。律法を守ることで救われるのではなく、キリストの十字架こそが救いなのだと言ったのです。ローマの信徒に対しても、割礼についてどう理解すべきか解説している箇所で、律法や割礼にこだわるユダヤ人を念頭に、「外見上のユダヤ人がユダヤ人ではなく、また、肉に施された外見上の割礼が割礼ではありません。内面がユダヤ人(神の選ばれた民)である者こそユダヤ人であり、文字ではなく霊によって心に施された割礼こそ割礼なのです」(2:28, 29)と明記しています。

主イエスが進んで洗礼を受けられたのは、この割礼に代わるものとしての「『神の民』となったしるしとしてである」と、私たちに示すためだったのです。

キリスト教まるわかり Q&A

◆何もわからないのですが。

必要なものはお貸しし、一つずつお教えいたします。また信仰の強要はいたしません。

◆礼拝とは何ですか。

私たちの悩みは神から離れていることに原因があります。礼拝で神を賛美し、祈り、御言葉を聞くことにより、人間のあるべき姿を取り戻していく、それが礼拝です。

◆献金とは何ですか。

神への献身を表すもので、お布施や聴講料、会費ではありません。本人の意志に任されており、あくまでも自由です。趣旨のわからない方はなさらなくても問題ありません。

◆聖餐式とは何ですか。

信仰告白をし、洗礼(バプテスマ)を受けておられる方のみになりますが、主イエスと共に生きていることを確認する儀式で、聖別された

パンとぶどう液をいただきます。

◆信者になるにはどうしたらいいですか。

自分の意志で主イエスの福音を信じ、洗礼を受けることにより教会員(信者)と呼ばれます。

◆キリスト教会は様々な教派があります。

大きく分けてカトリック教会とプロテスタント教会があります。プロテスタント教会は、設立された時代や地域、歴史的な背景によって成立が異なるため、多くの教派がありますが、憎み合っているのではなく、互いの特色を認め合い、助け合っています。

◆にせのキリスト教会がありますか。

キリスト教の枠組みからずれている教えについて、私たちは異端と呼んでいます。代表的な団体には「エホバの証人」「モルモン教会」「世界平和統一家庭連合」などがあります。特に韓国系キリスト教活動にはお気をつけください。お困りの方は牧師までご相談ください。

2026年教会暦・年間行事

(#はその年によって変動します)

「教会暦」はキリストの生涯をたどりながら1年を過ごすために作られました。当教会では教会暦に、継承されてきた伝統的記念日を加え、守っています。

顕現節(1/6～#2/17)

降誕日(12/25)から12日後に東方の博士がキリストを礼拝した顕現日(1/6)から始まります。降誕されたキリストが世界の救い主であることを覚えて過ごします。顕現節の最終主日は受難の整えをされた変貌のできごとを覚え、変容主日(#2/15)として守ります。

四旬節(#2/18～#3/28)

前年に使用したしゅろの枝を灰にしてかぶり悔い改めを表した儀式(この教会では行いません)、灰の水曜日(#2/18)から始まります。レントとも呼び、主日を除いた復活日前日までの40日間、キリストの受難を覚えて過ごします。

四旬節に続く受難週(#3/29～4/4)は、主イエスの最後の1週間を覚える週で、エルサレム入城に際し、しゅろの枝を用いて歓迎したしゅろの主日(#3/29)から始まり、洗足と主の晩餐が行われた木曜日(#4/2)、十字架にかかられた受難日(#4/3)と過ごしていきます。

復活節(#4/5～#5/23)

キリストが死にかけて復活されたことを祝うイースター(復活日・#4/5)から始まります。春分の日の後の最初の満月の次に来る日曜日と定められているので、祝日が毎年変動します。40日後のキリストの昇天(#5/14)を迎えたのち、復活節の最終主日(昇天主日 #5/17)となります。

聖霊降臨節(#5/24～#11/28)

復活日から50日目、聖霊が使徒たちに降ったことを記念する聖霊降臨日(ペンテコステ・#5/24)から

始まり、三位一体主日(#5/31)では父、御子、御霊の働きを告白し、過ごします。最も長い節期となります。

待降節(#11/29～12/24)

救い主キリストの誕生を祝う備えをしながら、待ち望むアドベント(待降節)は、11月30日に一番近い主日から始まります。降誕を祝うクリスマスは12月25日ですが、クリスマス礼拝(#12/20)は、25日以前の日曜日を選んでをささげています。

降誕節(12/25～1/5)

イエス・キリストの誕生を祝う日(12/25)から始まり、顕現日前日までの期間を指します。

【記念日】

母の日(5/10・5月第二)
ウェスレー回心記念日(5/24・1738年)
花の日(子どもの日・6/14・6月第二)
父の日(6/21・6月第三)
ホーリネス弾圧記念日(6/26・1942年)
宗教改革記念日(10/31・1517年)
収穫感謝日(11/22・11月第四)

【当教会行事】

新年元旦礼拝(1月1日・木)
成人祝福礼拝(#1/11・1月第二)
聖書愛読週間(#3/22～28)
みふみの日(3月23日)
教会創立記念礼拝(3月最終主日/創立記念日3/29)
最後の晩餐集会(#4月2日夕)
召天者記念合同礼拝(#6/14・6月第二)
弾圧記念礼拝(#6月28日・26日前後の主日)
石出忠師記念礼拝(#7月5日・7月第一)
敬老祝福礼拝(#9/13・9月第三)
子ども祝福礼拝(#11/1・11月第一)
クリスマスイブ礼拝(12月24日夕・木)

教会紹介

●歴史

私たちの教会は、ジョン・ウェスレーを源流とするメソジスト(青山学院、東北学院など)の信仰を継承しており、メソジストの教職であった中田重治が1901年に創立したホーリネス教会の信仰を受け継いでいます。2022年3月27日に創立いたしました。

●教義

旧新約聖書66巻を誤りない神の言と信じ、唯一の正典として信仰生活の規範にしています。また三位一体の神を信じ、イエス・キリストによる以外に救いがないことを告白しています。特色は、下記に紹介する四重の福音を強調していることです。

【四重の福音】

四重の福音は、長老教会の牧師A. B. シンプソンが提唱したものを、ホーリネス教会の創設者中田重治が自らの信仰に基づいた理解を加え、福音宣教の際に掲げた教えです。

人間の幸せは神と共に生きることで実現するのですが、神を認めず生きているため、むなしく日を過ごしているのが現実です。しかし、イエス・キリストが十字架によって神と人との絆を回復してくださったのです。これが福音です。この福音を信じることで、人間は本来もっていた真の幸いを覚えながら、充実した人生を送れるのです。

中田は、聖書に書かれてあるこの福音をわかりやすく語るべく、前述の提唱にある新生、聖化、神癒(しんゆ)、再臨(さいりん)の4項目に基づいて、以下のようにまとめました。

◆**新生** キリストの十字架と復活を信じ、新しく生まれ変わる。これにより、天に住まう者のように、日々喜びが与えられる。(コリントの信徒への手紙 2:5:17 など)

◆**聖化** 神に属する者であるとの自覚が与えられたことで、自己中心に生きていた心が砕かれ、同時に神中心の生活を求め始め、神のきよさに近づくこと。(ガラテヤの信徒への手紙 2:19 ~ 20 など)

◆**神癒(しんゆ)** 肉体を持っているがゆえに弱る私たちが、神のあわれみにより、病い、そして死の恐怖にも打ち勝つ力が与えられ、苦しみから解放されること。(出エジプト記 15:26 など)

◆**再臨(栄化)** キリストが再び地上に来られること。その時、死んだ聖徒たちは復活し、生ける信徒は死を経験せずに天に挙げられる。(コリントの信徒への手紙 1:5:51 など)

教会の信条

さがみはら きょうかい いか しんじょう かか
相模原ホーリネス教会は以下を信条として掲げています。

わたし
私たちはイエス・キリストを救い主として信じています。

しゅ
主イエスは、「神の国は近づいた。悔い改めて福音を信ぜよ」と宣言されてから約3年間、ひとびとを救い、人々にその教えとみわざを通して神の国の恵みを明らかにされ、そののち、私たちの罪を負って、十字架にかかれ、あがないを成し遂げ、神の国にはいる救いの道を開かれました。

この主イエスの救いへの招きに応じて神の国に属して生きる者となった私たちは、聖書が終末と示しているこの時代に、使命を全うすべく、「あなたこそ生ける神の子キリストです」と信仰告白をした者たちと共に、神の国の鍵を与えられた教会の一員とされたことを覚えながら、聖霊の助けによって以下のことを宣証しつつ歩みます。

- ①キリストによる完全な救い
- ②真心からささげる礼拝
- ③キリストをかしらとした教会の交わり
- ④神の憐れみによるいやしと慰め
- ⑤信仰生活がもたらす祝福
- ⑥世界にも目を向けたとりなしの祈り
- ⑦神の愛に基づく社会への貢献

MEMO

単立 相模原ホーリネス教会

創立 2022年3月27日

主任牧師 土屋 和彦 牧師 石出 佳代子 牧師 土屋 淳子

252-0205 相模原市中央区小山 3-31-3

TEL&FAX 042(772)8910 e-mail church@bethels.info

ホームページ <http://www.bethels.info/>

